

中央労働災害防止協会
教育推進部長 平野良雄
【照会先】
(社)富山県労働基準協会
専務理事 小山孝義
企画広報部安全衛生情報センター
所長 間宮直樹
(電話) 03-3452-6542
(FAX) 03-3452-9225
E-mail koho@jisha.or.jp

全国産業安全衛生大会の開催について —労働災害の減少に向けた新たな決意 わが国最大の安全衛生イベントを 富山で開催—

中央労働災害防止協会（会長 よねくらひろまさ 米倉弘昌・(社)日本経済団体連合会会長）（注）は、本年 10 月 24 日（水）から 26 日（金）までの 3 日間、富山市総合体育館をメイン会場に、「第 71 回（平成 24 年度）全国産業安全衛生大会」を開催します。

今回の大会は、功労者の表彰、専門家による講演や企業の安全衛生管理の研究発表などを行うとともに、9 月 28 日、厚生労働省からなされた労働災害減少に向けた「緊急要請」を受け、本大会を、労働災害の増加傾向に歯止めをかけ、犠牲者をこれ以上出さないという決意を新たにす大会と位置づけています。

併せて、同大会の会期中「りよくじゅうじてん緑十字展2012—働く人の安心づくりフェア—」を開催します。

（注）

中央労働災害防止協会（以下 略称「中災防」）は、昭和 39 年に労働災害防止団体法に基づき設立された団体で、事業主の自主的な労働災害防止活動を支援するため、企業の人材の育成、安全衛生の専門技術の提供および最新安全衛生情報の提供などの安全衛生に関する総合的な事業を行っています。

1 第71回（平成24年度）全国産業安全衛生大会 （詳細は別紙1＝P.4）

全国産業安全衛生大会は、昭和7年の第1回開催以来、全国の事業場の経営者、安全衛生スタッフ、管理・監督者、産業保健スタッフなど安全衛生に係わる関係者1万人が参集し、産業現場での安全と健康の確保を誓う国内最大の安全衛生イベントです。

第1日目（10月24日）の「富山市総合体育館」における総合集会では、開会式（厚生労働大臣、富山県知事及び富山市長の祝辞）、表彰式が行われます。

引き続き、厚生労働省労働基準局安全衛生部長から、労働災害減少に向けた緊急要請を踏まえ「労働安全衛生行政の動向～2年連続災害増加への対応～」と題した講演を、またアルピニストの野口 健氏から「目標を持って生きることのすばらしさ」と題して特別講演をいただくこととしています。

第2、3日目（同25日、26日）には、富山県民会館、富山国際会議場など7会場で、10分科会に分かれ、有識者による専門的な講演、事業場の安全衛生スタッフによる改善事例・研究発表、今日的なテーマについてのシンポジウムなど、合わせて180件の多彩な演題を準備しています。

また、第1日目の総合集会において、労働災害のない安全・健康で快適な職場づくりを願う、平成25年「年間標語」の発表を行います。

平成25年 年間標語

安全が 最優先の我が職場 仲間を守る 家族を守る

2 りょくじゅうじてん 緑十字展2012 —働く人の安心づくりフェア— （詳細は別紙2＝P.11）

全国産業安全衛生大会と併催で、富山産業展示館（テクノホール）において、働く人の安全と健康の確保に係る機械・機器、安全衛生保護具・情報、職場環境関連分野、作業方法改善関連分野、健康増進・リフレッシュ関連分野、震災対策分野、地球温暖化対策関連など、広範な分野に関する最新の機器、設備、情報を展示いたします。

労働安全衛生に関する国内最大の展示会です。

また、会場内では展示会のほかに特別セミナーを企画し、職場の安全衛生、メンタルヘルス、震災対策などの国民的課題についても取り上げます。

第 71 回全国産業安全衛生大会関連 の詳細は中災防のホームページから

- 第 71 回全国産業安全衛生大会
<http://www.jisha.or.jp/taikai/index.html>
- 緑十字展 2012
<http://www.jisha.or.jp/ryokujujiten/index.html>
- 震災復旧・復興作業の安全衛生を総合的にサポート
<http://www.jisha.or.jp/sinsai/index.html>
- 中央労働災害防止協会
<http://www.jisha.or.jp/>
- 労働災害減少に向けた緊急要請について（厚生労働省）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002krc7.html>

第71回(平成24年度)全国産業安全衛生大会

(1) 大会の趣旨

労働災害の増加傾向に歯止めをかけ、反転へ向け決起する場

わが国の労働災害は長期的には減少傾向にあるものの、今なお年間約51万人が被災し、1,000人を超える尊い命が失われています。

また、労働災害による休業4日以上死傷者数は、平成22年、23年と2年連続して増加しており、このような事態は1970年代の石油ショック後の景気回復期以来、実に33年ぶりのことです。

この間、企業及び関係団体の労働災害の減少に向けた取り組みにもかかわらず、平成24年に入ってもその増加傾向には歯止めがかからず、8月末までに発生した労働災害の件数は、昨年8月末までに発生した件数に比べて7.9%の増加となっています。

この傾向が続けば労働災害が3年連続で増加するという極めて憂慮すべき事態も想定され、9月28日、厚生労働省から事業主団体並びに労働災害防止団体等に対して「労働災害減少に向けた緊急要請」がなされました。

そこで、全国の事業場の安全衛生関係者が参集する全国産業安全衛生大会を、「労働災害の増加傾向に歯止めをかけ、反転へ向け決起する場」と位置づけ、労働災害による犠牲者をこれ以上出さないという決意を新たにすることとしています。

初日の総合集会において、この決意を参加者の総意として宣言することとし、これらを通して今後の労働災害の防止への機運の一層の高まりを図ることとしています。

今日のこうした状況を踏まえ、労働災害を未然に防ぐためには、各事業場が自主的な労働災害防止活動を有効かつ有機的に展開する必要があり、事業場の安全衛生関係者は、最新の安全衛生情報の入手や、他社の優れた活動事例・研究成果を参考にするとともに、同じ立場の方々と意見交換を行うことが必要です。

本大会では、事業場における自主的な労働災害防止活動をさらに積極的に展開するため、それらの活動事例・研究成果を吸収し、ブラッシュアップする研鑽の場として毎年3日間の日程で開催され、全国から約1万人の事業場の安全衛生関係者が参集します。

- 本大会は、昭和7年の第1回開催から数えて第71回目を迎えます。

(2) 大会の概要

● 日程

平成24年10月24日(水)～26日(金)

● 会場

総合集会(10月24日(水)): 富山市総合体育館

分科会(10月25日(木)、26日(金)): 富山県民会館、富山国際会議場、富山観光物産センター、ポルファートとやま、タワー111、富山県農協会館、オーバード・ホール

- 初日の総合集会では、開会式、職場の安全と健康の確保・向上に功績のあった個人・事業場に対する表彰の後、労働災害の減少に向けた緊急要請を踏まえた「労働安全衛生行政の動向～2年連続増加への対応～」について厚生労働省労働基準局安全衛生部長から講演をいただくほか、アルピニストの野口 健氏から「目標をもって生きることのすばらしさ」と題して特別講演をいただきます。

- 2日目・3日目は、テーマ別に10の分科会(参考1)に分かれ、事業場等における安全衛生に関する改善事例や研究成果等の発表(147件)のほか、著名人、有識者、企業トップによる講演(13件)(参考2)、今日的なテーマについてシンポジウム(2件)(参考3)、特別報告・事例報告(17件)のほか、俳優の三浦友和氏をメインキャストに迎えたトークショーなど、合わせて180件の多彩なプログラムを用意しています。

震災関連では2件のプログラム(参考4)が予定されています。

なお、富山県の事業場等から提出された24件の研究発表は(参考5)のとおりです。

(参考1) 10分科会

- 1 リスクアセスメント／マネジメントシステム分科会
労働安全衛生マネジメントシステムの導入・定着の事例など
- 2 安全管理活動分科会(1)
安全管理、小集団活動、職場安全活動の推進事例など
- 3 安全管理活動分科会(2)
中小企業・第三次産業の安全管理、職場安全活動の推進事例
- 4 機械・設備等の安全分科会
機械・設備の安全対策(はさまれ・巻き込まれ等の防止対策)の事例など
- 5 安全衛生教育分科会
企業内における安全衛生教育、安全(危険)体感教育の事例など
- 6 労働衛生管理活動分科会
職場の作業環境管理、作業管理及び健康管理に関する事例など

- 7 化学物質管理分科会
化学物質に関するリスクアセスメントによる健康障害防止対策の事例など
- 8 ゼロ災運動分科会（※1）
危険予知訓練（KYT）や指差し呼称を日々の作業の中で展開している事例など
- 9 交通安全分科会
構内・構外の交通事故防止対策事例など
- 10 メンタルヘルス／健康づくり分科会
メンタルヘルス不調者の職場復帰支援など職場のメンタルヘルス対策に関する事例など

（※1）**ゼロ災運動**（ゼロ災害全員参加運動）とは、「働く人の立場に立って人間一人ひとりを大事にし、ゼロ災害、ゼロ疾病を究極の目標に職場の危険や問題点を全員参加で解決し、安全と健康を先取りすることによって明るくいきいきとした職場風土づくりをめざす運動」です。

具体的には、職場の安全先取り活動である危険予知（KY）活動、指差し呼称、5S活動等を行うことによってヒューマンエラーによる事故を防止し、職場の安全水準を上げるための現場力の向上を図る運動として多くの職場で導入されています。

(参考2) 講演(13件)

NO	演題名	発表者名	事業所	所属・役職
1	危機に備えるBCM(事業継続管理)～企業におけるBCMのあるべき姿～	木船 賢治	富士ゼロックス(株)SS営業本部 営業計画部	危機管理シニアアドバイザー
2	安全に王道なし ～地道な不断の5S運動の重要性～	木村 温彦	きむら5S実践舎	代表
3	日本の“ものづくり”の原点と安全	大田 弘	(株)熊谷組	取締役社長
4	第三次産業における新たな安全衛生活動の推進	半田 有通	厚生労働省安全衛生部	安全課長
5	知をもってポカを制す ～伝わらない知識を実践する知恵～	飯野 謙次	特定非営利活動法人失敗学会	副会長・事務局長
6	部下との対話 ～成長を実感するコーチング～	菅原 裕子	人材開発コンサルタント(有)ワイズコミュニケーション	代表取締役
7	東日本大震災に伴う原発事故による放射性物質の汚染への対応 ～放射線の基礎知識と労働者の放射線被ばく管理について～	山田 憲一	中央労働災害防止協会 労働衛生調査分析センター	副所長
8	海外勤務者の健康管理 ～感染症対策を中心に～	濱田 篤郎	東京医科大学病院 渡航者医療センター	教授・医師
9	自主的な化学物質管理に向けて	奈良 篤	厚生労働省 安全衛生部	化学物質対策課長
10	スポーツマネジメントによる企業の危機管理 ～トップアスリートの視点から～	大八木 淳史	芦屋大学特任教授・芦屋学園中学校・高等学校・香川大学客員教授・元ラグビー日本代表	学校長
11	リスク実態に合致した頻出ヒューマンエラー対策の手法	北村 憲康	東京海上日動リスクコンサルティング(株)自動車リスク事業部	開発グループ グループリーダー(主席研究員)
12	企業におけるメンタルヘルス対策の今後の方向性について	椎葉 茂樹	厚生労働省 安全衛生部	労働衛生課長
13	ストレス一日決算主義のすすめ	山本 晴義	独立行政法人労働者健康福祉機構 横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター	センター長

(参考3) シンポジウム (2件)

- 1 10月25日(木) リスクアセスメント/マネジメントシステム分科会
「海外工場への安全衛生展開のあり方、進め方、その効果」
＜シンポジスト＞
(社) 富山県労働基準協会顧問 (元YKK(株) 黒部事業所上席常務黒部事業所長) 松田 章
横浜ゴム(株) 理事MB (マルチプルビジネス) 管掌補佐 渡辺 和夫
キヤノン(株) 安全衛生部長 荒木 操
＜コーディネーター＞ 中央労働災害防止協会常務理事 野口 直人
＜司 会＞
中央労働災害防止協会マネジメントシステム審査センター所長 白崎 彰久

- 2 10月25日(木) 機械・設備等の安全分科会
 - 基調講演 松本俊次 (技術コンサルタント・技術士)
欧米における機械災害防止のためのメーカー/ユーザー間のリスクコミュニケーションの現況
 - パネルディスカッション
機械メーカーからユーザーへの「機械危険情報」提供に関する労働安全衛生規則改正を巡って
＜パネリスト＞
コマツ産機(株) 品質保証部 品質保証グループ グループ長 畑 幸男
トヨタ自動車(株) 安全健康推進室 宮川 光雄
＜助言者＞
厚生労働省安全衛生部安全課 副主任中央産業安全専門官 高橋 洋
＜司 会＞ 明治大学理工学部情報科学科教授 向殿 政男

(参考4) 震災関連プログラム

- 1 10月25日(木) 労働衛生活動分科会 講演
「東日本大震災に伴う原発事故による放射性物質の汚染への対応 ～放射線の基礎知識と労働者の放射線被ばく管理について～」
中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター 副所長 山田 憲一

- 2 10月26日(金) 安全衛生教育分科会 特別報告(震災関連)
「日産自動車いわき工場における震災復旧の取り組みについて」
日産自動車(株) いわき工場 管理課 次長 江口 薫

(参考5)

全国産業安全衛生大会(平成24年10月25～26日)
富山県から提出される25件の研究発表

No	期日	分科会名	演題名	発表者名	事業所	所属
1	10月25日(木)	リスクアセスメント/マネジメントシステム分科会	グループ各拠点でのOSHMMS認定取得と今後の安全衛生管理水準の維持向上に向けて	長谷川 孝博	YKK AP(株)黒部事業所	安全・環境センター安全衛生管理部
2	10月26日(金)	リスクアセスメント/マネジメントシステム分科会	危険に気づきリスク撲滅を目指す継続的なリスクアセスメント活動	豊本 敏弘	アイシン軽金属(株)	安全環境部部長
3	10月26日(金)	リスクアセスメント/マネジメントシステム分科会	射水工場のリスクアセスメントと定着に向けた推進活動	米沢 吉彰	三協立山(株)射水工場	安全環境課
4	10月25日(木)	安全管理活動分科会(第1会場)	本質安全化を基本とした新たな取り組み～安全活動のレベルUPで災害ゼロを目指す～	高柳 一仁	(株)不二越	安全環境室室長
5	10月25日(木)	安全管理活動分科会(第2会場)	斜面での伐採作業に対応した転倒・滑落用保護具「きこり着」の開発	新谷 智弘	北陸電力(株)	電力流通部送電チーム
6	10月25日(木)	安全管理活動分科会(第2会場)	鉄軌道車両の車輪削正に伴う災害防止について	山海 勝	富山地方鉄道(株) 稲荷町テクニカルセンター	車両グループ長
7	10月25日(木)	安全管理活動分科会(第2会場)	専門工事業者と一体となった労働安全衛生マネジメントシステム構築に向けた取り組み	川辺 一正	塩谷建設(株)	安全品質管理部 部長
8	10月26日(金)	安全管理活動分科会(第2会場)	無災害職場実現に向けた方針展開プログラム(外国人就労職場の安全衛生活動)	阿波加 克実	(株)エス・テック 氷見工場	安全環境マネジメントシステム管理責任者 安全環境課長
9	10月25日(木)	安全衛生教育分科会	安全管理と人材育成について	成瀬 裕	KYODOU(株) リアルセキュリティ	専務取締役
10	10月25日(木)	労働衛生管理活動分科会	定期健診所見の変化からみた小規模事業場男性労働者の健康実態	増田 法子	(公財)友愛健康医学センター	保健師
11	10月25日(木)	労働衛生管理活動分科会	「暑さ指数の測定と熱中症予防対策」富山産業保健推進センター指導の下に	石動 貞明	石動技術士・労働安全コンサルタント事務所	所長
12	10月25日(木)	ゼロ災運動分科会	私たちの「職場を変え、人を変える活動」	東海 慶多	コマツキャステックス(株)	鑄鉄生産部 製造第一課 鑄仕上センタ 班長
13	10月25日(木)	ゼロ災運動分科会	大鉄KY活動を労働災害防止に活かすために	目黒 裕	大鉄工業(株) 北陸支店 富山出張所	副所長

全国産業安全衛生大会(平成 24 年 10 月 25～26 日)
富山県から提出される 25 件の研究発表

No	期 日	分科会名	演題名	発表者名	事業所	所 属
14	10 月 25 日(木)	ゼロ災運動分科会	全社一丸となつてのゼロ災運動の推進	岡 田 茂	(株)新日軽北陸 小矢部工場	総務課 主査
15	10 月 26 日(金)	交通安全分科会	「安全と安心の提供」を目指す安全活動の取り組みについて	小 林 剛	黒部警備(株)	交通課
16	10 月 25 日(木)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	当社における特定保健指導の課題	加 藤 洋子	日本通運(株) 富山港支店	安全衛生課 保健師
17	10 月 25 日(木)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	集団保健指導「メタボリック予防セミナー」	小野島 尚子	関西電力(株) 北陸支社	人材活性化グループ
18	10 月 25 日(木)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	あなたの職場の健康づくり～厚労省委託H22年度労働者の健康改善支援事業を通して～	宮 林 佐千子	(財)北陸予防医学協会	健康推進課
19	10 月 25 日(木)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	6ヶ月間の禁煙サポートで禁煙を達成した者のその後の禁煙継続状況について	中 島 有 紀	YKK(株) 黒部事業所	健康管理センター
20	10 月 25 日(木)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	体験型健康づくり教室活動の展開について	奥 野 敬 生	日本通運(株) 高岡支店	管理 保健指導員
21	10 月 25 日(木)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	事業場別に見た一次予防対策の実施状況	田 中 千 尋	社会保険高岡病院	健康管理センター 保健師
22	10 月 26 日(金)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	健康診断機関が支援する職場のメンタルヘルス	小松 紀美子	(財)北陸予防医学協会	事業運営部・メンタルサポート 主任
23	10 月 26 日(金)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	SOSのサインを見逃さない～予防管理の取り組み～	大 崎 裕 一	パナソニック(株)デバイス社	半導体人事・総務グループ マニファクチャリング 北陸人事チーム 主事
24	10 月 26 日(金)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	ラインケアの要となる職場管理者に対する“ステップアップ研修”の実施について	東 山 正 子	YKK(株) 黒部事業所	安全衛生グループ衛生管理者 産業カウンセラー
25	10 月 26 日(金)	メンタルヘルス/健康づくり分科会	当社従業員の睡眠実態の調査と支援	山 田 京 子	(株)不二越	不二越病院

1 緑十字展2012の概要

緑十字展は、昭和43年（1968年）10月、東京都港区の産業安全会館において中災防が主催した安全衛生保護具の展示会がその起源で、本年度で45回目を迎えます。

今年の緑十字展には85の企業や機関・団体からの出展があり、

- ① 安全衛生分野における本質安全化に係る機械・機器、安全衛生保護具
- ② 職場環境関連分野、作業方法改善関連分野、健康増進・リフレッシュ関連分野の機械・器具
- ③ 防火・震災対策分野、省エネ対策関連など広範な分野の機器、設備など、各社の最新かつ多数の商品・情報を展示しており、労働安全衛生に関する国内最大の展示会に成長しました。

会場内では、出展者（企業・機関・団体等）による一般展示のほか特別展示や特別セミナーなどを企画し、安全衛生を始めとして、震災対策、交通安全対策、省エネ対策のような今日の国民的課題も取り上げています。

また、特別企画として、

- ① 安全衛生保護具の正しい装着などの体験を通して安全衛生保護具の有効性を再認識していただける「保護具体験道場」、
- ② 正しい運転技術やシートベルトの有効性を体験できる「交通安全コーナー」、
- ③ 省エネ対策に有効な電気自動車の展示・試乗会など、来場者の皆さんが、実体験できる体験コーナーを企画しています。

開催期間中、全国産業安全衛生大会の参加者をはじめ、企業関係者など約1万2千人の来場を予定しています。

入場は無料です。

2 特別企画・特別セミナー等について

1 概要

出展者による一般展示の他に、来場者が実際に体験することができる特別企画コーナーを設けます。

また、特別セミナーとして初日・2日目に安全衛生セミナーおよび震災対策セミナーを開催するとともに、グルメ・物産コーナーを設けることとしています。

2 内容

1 特別企画

(1) 東日本大震災を踏まえた震災対策展

- ① 東日本大震災報道写真ギャラリー
- ② 震災対策に取り組む研究機関等の協力を得た展示・体験コーナー

人と防災未来センター、富山県、富山市、陸上自衛隊富山駐屯地、港湾空港技術研究所

- ③ 防災用品出展者を集めたコーナー
非常食の試食、災害用トイレや避難用品

(2) 安全衛生保護具体験道場

10 種類の保護具等を実際に装着し、各種保護具の試験機器などを使う体験を通じて、正しい知識や装着方法を学ぶことができます。

また今回は、除染等業務従事者用の保護具装着も体験できます。

(3) 交通安全コーナー

交通労働災害対策として、シートベルトの有効性を体験していただくほか、ドライビングシミュレーターを通して正しい運転技術を習得できる体験コーナー。

(4) 電気自動車の展示・試乗コーナー（地元自動車メーカーの展示含む）

省エネ対策、エコロジーの視点から電気自動車の試乗体験をいただきます。

2 特別セミナー

(1) 10月24日（水）【安全衛生セミナー】

- 「今まで聞いたことがない安全衛生保護具の話」

十文字学園女子大学大学院人間生活学研究科 教授 田中 茂

- 「機械の本質安全化：既存設備の追加安全方策の検討及びその進め方」

オムロンフィールドエンジニアリング(株) I Bサービス事業部 I B技術サポート 課長代理 濱田浩二

- 「働く人のメンタルヘルス」

中災防健康快適推進部 部長 阿部 研二

(2) 10月25日（木）【震災対策セミナー】

- 「自然災害にどう備えるか～本当に富山では自然災害は起きないか～」

立山カルデラ砂防博物館理事／

(株)よしもとコミュニケーションズ 代表取締役 吉友 嘉久子

- 「新潟県中越沖地震の被災復旧経験に基づく「地震に強い工場作り」と「製品供給継続体制の構築」

(株)リケン グローバル調達部 部長 行田 克之

3 物産・グルメコーナー

富山名産品の販売や、B級グルメをはじめとした富山の食を体感できるコーナーを設けます。

4 開会式のイベント

富山県警察音楽隊による演奏を行います。

5 そのほか

緑十字展会場と全国産業安全衛生大会の総合集会や分科会が開かれる駅周辺、空港とを結ぶ無料のシャトルバスを10分おきに運行します。